

令和6年度 江戸川区立篠崎第四小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>「よく考え、つくり出す子」</li> <li>「みんなとともにのびる子」</li> <li>「たくましく生きる子」</li> </ul>	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全で心地よい学校・子供を大事にする学校・学ぶ喜びを知る学校・地域と共に歩む学校</li> <li>主体的に学び、自分の成長を喜び、学びに意欲をもって取り組む子・自他の生命を尊び生命相手の立場や気持ちを考えて行動できる子・運動の楽しさを味わい心身ともに健康で活力ある生活を送ることができる子</li> <li>子供を愛し大切にする教師・学校の仲間、地域、自分を大切にする教師・専門性を持ち、教育のプロとして自己肯定感を持つ教師</li> </ul>
前年度までの本校の現状	成果	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校内CDTテストでは、国語は4・6年、算数は5・6年が正答率80%を超えることができなかった。</li> <li>●外部機関との連携をさらに行っていきたい。</li> <li>●月に1回の一斉退勤日を会議無しの日としたが仕事量は減らすことができず時間外の勤務者が多くなってしまっている</li> <li>●SSS等を週に1回以上活用することができた。時期によって差があるので、定期的に活用していききたい。</li> </ul>

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎基本の定着とそ のための学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベーシックタイムの実施</li> <li>篠四スタンダードの徹底</li> <li>家庭と連携した毎日の家庭学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎基本の定着を図る教育活動の実施の肯定的意見の割合を80%以上。</li> </ul>	A	A	A	ベーシックタイムの実施、篠四スタンダードの振り返り等で基礎基本の定着に取り組んだ。家庭学習もさらに進めたい。	A	アンケートでは、97%の肯定的意見の回答を得たが、さらに成果が上がるよう家庭と連携して学力向上を目指す。	B	江戸川区の定着度調査も活用し、基礎基本の定着に取り組んだが、苦手分野の克服にはさらに努力を続けたい。	A	アンケートでは、楽しい学習活動で、99%となったが、基礎学力向上の取り組みでは90%とどまった。	江戸川区学力テストの結果を活用し、改善点を考察し、基礎学力の向上に取り組む。
	○個に応じた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研究を生かした授業改善（ユニバーサルデザイン）授業に意欲的に取り組む</li> <li>ICTの活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に楽しく取り組んでいる肯定的意見の割合を80%以上。</li> </ul>	B	A	B	算数科を中心に授業研究をすすめ、自分の考えをもち伝え合い考えを深める学習方法を試み、楽しくは取り組んでいる。	B	アンケートの「楽しく学習」は、98%であったが、「主体的な学習」では、86%にとどまった。	B	自分で見通しを立て、自分で課題に取り組む学習スタイルを取り入れ、主体的な学習を進めた。	A	アンケートでは、ICTの活用・主体的な学習での取り組みでともに90%。参観の方からICTの活用に評価いただいた。	研究のまとめを作成し、改善点・今後の重点を整理し、授業改善に努める。
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>篠崎子ども図書館による資料準備・整備を活用</li> <li>学校応援団との連携</li> <li>読書の時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書等を活用した学習に取り組んでいる肯定的意見の割合を80%以上</li> </ul>	B	A	B	しのよんおはなし隊・ブックママ・子ども図書館との連携で図書に興味をもち学べた。高学年は、よむYOMUも活用した。	A	アンケートの「ICT、図書を用いて学習に取り組めるように活動」では、93%の肯定的意見の回答を得た。	B	図書選定も含め、学校応援団のおかげで、たくさんの方に親しむことができた。調べる学習、ブックトークにも取り組んだ。	A	アンケートでは、ICT機器や図書を使っての調べ学習について90%いただいた。学習の広がり深まりについて発表資料を評価いただいた。	図書やICTの活用を、さらに呼びかけ、授業の中の活用や価値づけを意識する。
体力の向上	○体力向上の視点に 立った取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通した縄跳び運動の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力向上を図っている肯定的意見の割合を80%以上。</li> </ul>	A	A	A	なわとびweek・体育学習発表会での活用ができた。篠四ダンスの定期的な実施も継続し運動を楽しんで活動した。	A	アンケートの「体力の向上」では98%の肯定的意見の回答を得た。PTAと連携し夏季休業中の篠四ダンスにも取り組んだ。	A	運動委員会児童を中心に縄跳び運動に親しんだ。江戸川区縄跳びコンテストで優秀賞に入賞した。	A	アンケートでは、98%の肯定的回答を得た。引き続き体力向上に取り組む。	年間を通した、なわとびカードの活用、基礎的な技の紹介を行っていく。
	○歯の健康の意識化 よい生活習慣の維持と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の歯の健康についての啓発の取り組み</li> <li>食育・家庭と連携した生活リズム週間の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童の給食後の歯磨きの実施</li> <li>フッ化物洗口の2学期の実施</li> </ul>	A	A	A	全児童の給食後の歯磨きを実施している。フッ化物洗口の準備も整え2学期から実施している。生活リズム習慣も実施。	A	アンケートの「生活習慣の向上」では、99%の肯定的意見の回答を得た。歯科医による学校保健委員会も実施した。	A	学校医との連携で、歯の健康について伝えてきた。フッ化物洗口による意識化も進んだ。	A	アンケートの「生活習慣の向上」では、98%の肯定的意見の回答を得た。歯の健康について意識が高まった。	引き続き歯の健康について呼びかけていく。
	○行事を通した体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育学習発表会での意欲的な取り組み</li> <li>スポーツテストへのめあてを持った取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカード等を活用した行事ごとの振り返りの実施</li> </ul>	B	A	B	体育学習発表会では、体を使った表現に意欲的に取り組んだ。スポーツテストにめあてをもち取り組んだが練習が不足した。	A	体育学習発表会実施後のアンケートは、大変好意的であった。熱中症予防を含め、種目数など検討していく。	B	持久走週間での取組後、学年ごとの納めの会で、達成感をもちつつ体力向上を意識できた。	A	アンケートでは、98%の肯定的回答を得た。引き続き体力向上に取り組む。	スポーツテストへのめあてを持った取り組みを継続する。
共生社会の 教育の推進	○他者との気持ちのよい コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動の取り組み</li> <li>篠四スタンダードの全員による意識化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちの良い生活にの肯定的意見の割合を80%以上</li> </ul>	B	A	B	代表委員会によるあいさつ運動により全校での意識がさらに高まった。言葉遣いについて人権習慣と関連し取り組んだ。	B	あいさつがよくできていると、学校評議員から声掛けをいただいている。言葉遣いについては今後も取り組みを続ける。	B	あいさつの意識は高まった。友達とのコミュニケーションについては、今後もアドバイスを続けていく。	A	学校評議員からは、お褒めの言葉をいただいている。アンケートでは楽しく生活に取り組んでいるで99%の評価を得た。	引き続きあいさつ運動を推進する。生活指導部で言葉遣いの改善について啓発する。
	○ユニバーサルデザイン を取り入れた個に応じた学習の工夫。	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員や特別支援教室専門員の活用と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導記録に細かい記録欄を作り、毎回指導後の記録を作成し、校内で共有する</li> </ul>	B	A	B	指導記録の共有はしっかり行えた。ユニバーサルデザインを意識したわかりやすい学習は校内研究も含め工夫を行っている。	B	特別支援教室との連携は、今後もしっかり行っていく。	B	教職員・スクールカウンセラー・SSWなど連携により、個々の児童に応じた指導の工夫を行うことができた。	A	関係者からは、評価いただいている。特別支援教室との連携は、今後もしっかり行っていく。	授業観察の機会を増やすとともに特別支援教育コーディネーターとの連携を確実にする。
	○特別支援教室の活用 促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室について保護者への理解啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPでの紹介</li> <li>コーディネーター・SCの面談を希望者に適宜行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページに特別支援教室についての紹介を掲載した。SC面談は空き時間なく活用し、学校との連携もはっきり行った。</li> </ul>	A	A	A	ホームページに特別支援教室についての紹介を掲載した。SC面談は空き時間なく活用し、学校との連携もはっきり行った。	A	アンケートの「特別支援教育への取り組み」では、97%の肯定的意見の回答を得た。	A	紹介や相談によって、特別支援教室を希望するの方との、面談等行うことができています。	A	アンケートの「特別支援教育への取り組み」では、95%の肯定的意見の回答を得た
不登校・いじめ 対策	○いじめアンケートの 確実な実施と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童にアンケートを毎学期実施するとともに、全員面接を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめに対する適切な指導の肯定的意見の割合を80%以上。</li> </ul>	A	A	A	1学期の全校アンケートを実施し、全員面談を行い、早期発見と対応を行った。日常の中でも即時対応を行った。	A	アンケートの「いじめアンケート等による児童理解」では、97%の肯定的意見の回答を得た。	A	アンケートの毎学期の実施と個別面談をすべて行った。解決に丁寧な対応が必要な場合も連携して取り組んだ。	A	アンケートの「いじめアンケート等による児童理解」では、95%の肯定的意見の回答をいただいている。	引き続きアンケートを確実に実施していく。
	○豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動への取り組み</li> <li>異学年交流（なかよし班）等の活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校が楽しいの肯定的意見の割合を80%以上。</li> </ul>	A	A	A	全校でのあいさつ運動への取り組み、なかよし班活動の継続した実施、50周年記念行事集会等の実施。	A	アンケートの「楽しく学習や生活を送ること」では、98%の肯定的意見の回答を得た。	A	50周年記念行事の実施、学習発表会の実施、なかよし班の活動、集会活動などの取り組みは、充実したものになった	A	アンケートの「楽しく学習や生活を送ること」では、99%の肯定的意見の回答を得た。	引き続き、あいさつ運動、なかよし班の活動を活性化させる。

心 の 充 実	○豊かな心の育成	・道徳教育の充実 ・情報モラル教育の充実	・年間3回以上のいじめ防止の授業の実施。情報モラルの授業の全学年での実施	A	B	A	6月にいじめ防止の授業を行った。情報モラルについて道徳の時間を活用して行うとともに日頃からの声掛けを行っている。	A	道徳授業地区公開講座では自己肯定感を高め明るい気持ちで過ごす生き方について5、6年児童と保護者の講演会を実施することができた。	B	いじめ防止の授業・情報モラルの授業は、全学年実施した。いじめの再発防止には、継続して取り組んでいく。	A	アンケートでは98%の評価を得ているが、情報モラル・いじめの防止には、引き続き真摯に取り組む。	道徳授業・情報モラル授業を充実させ、確実に実施する。
学校 (園) の 実 現	○学校からの情報の積極的発信	・個人面談、保護者会、各種便り、HPでの情報発信 tetoruによる情報発信	・HPの活用等により連携しての肯定的意見の割合を80%以上	A	A	A	各種の便りで具体的に発信するとともに、tetoruで情報発信を行い、時機を逸せず、伝えることができた。	A	アンケートの「個人面談、保護者会、HPの活用による連携」の項目での肯定的意見95%の回答を得た。	A	tetoruの活用で、連絡をわかりやすく伝えることができた。HPで、学校の様子も伝えられた。	A	アンケートの「個人面談、保護者会、HPの活用による連携」の項目での肯定的意見98%の回答を得た。	情報部の相互チェックで、活発に更新していく。
	○学校関係者評価の充実	・学校アンケートの実施 ・学校評議員との連携 ・町会との連携	・学校アンケートを2回行う。 ・評議員会を3回以上実施する。	A	A	A	第1回目学校アンケートを行い集計考察を行った。50周年記念式典に関連し、学校評議員・各町会との連携も行っている。	A	第1回アンケートで、意見をいただき、今後の運営に生かしていく。	A	アンケートの実施、町会・学校評議員との日頃からのコミュニケーションと協力がよく行えた。	A	学校アンケートを2回行い、意見をうかがった。評議員会を3回実施し、意見をいただき学校運営に活かした。	今年度同様に、学校評議員・町会と連携し、開かれた学校を目指す。
	○OPTAとの連携	・運営委員会 ・周年実行委員会 ・学校応援団の拡充	・相談しやすい開かれた学校の肯定的意見の割合を80%以上。	A	A	A	PTA行事・50周年式典・祝賀会に向け計画的に話し合いや準備をすすめている。学校応援団も拡充し、連携している。	A	アンケートの「相談しやすい開かれた学校として機能している」で91%の肯定的意見の回答を得た。	A	周年の計画実行と共に、PTA活動・イベントの充実で子供たちも保護者も楽しめる活動を行うことができた。	A	アンケートの「相談しやすい開かれた学校として機能している」で95%の肯定的意見の回答を得た	今年度同様に、連絡を密に、開かれた学校を目指す。
教育 の 展 開	○ユニバーサルデザインの活用による主体的に学ぶ授業方法の工夫	・ユニバーサルデザインを取り入れた、わかりやすい授業の工夫。意欲を高める工夫。	・全学年全学級による授業研究を行い、算数授業スタンダードを推進する。	B	A	B	3年生、5年生、6年生による授業研究を行った。自分の考えをもち、伝え合い考えを深めて学びをすすめている。	B	学校公開等で保護者・地域の皆様に参観いただき、改善を重ねている。	A	各学年の研究授業を中心に授業改善が行われ、子供にとって、主体的に楽しい学習が行えた。	A	アンケートのユニバーサルデザインを取り入れた主体的な学習の項目では、91%の評価を得た。	研究のまとめを作成し、改善点・今後の重点を整理し、授業改善に努める。
	○縦割り班等異学年交流による共にのびる子の育成	・なかよし班により、思いやりの心、責任感、自己有用感等の醸成をすすめる。 ・ペア学級の交流	・なかよし班遊びを6回以上行う。 ・ペア学年の学習交流を各学年で行う	A	A	A	なかよし班遊びを計画的に行っている。上学年が下学年を思いやるとともに楽しく親しく交流できている。	A	アンケートの「楽しく学校生活を送ること」の項目で98%の肯定的意見の回答を得た。	A	3学期は、6年生を送るための活動を通して、伝統を引き継ぎ、感謝で送り出す体験ができた。	A	アンケートの「楽しく学校生活を送ること」の項目で99%の肯定的意見の回答を得た。	なかよし班交流を継続していく。
	○6年生全員参加のマーチングバンド活動	・鹿骨区民館祭りへの参加 ・発表の場を設定する。	・全体発表を3回以上行う。	A	A	A	鹿骨区民館祭りのパレード・体育学習発表会での発表50周年記念集会で立派に発表し、地域とのつながりを深めた。	A	PTAとも連携し、子供たちの活躍を学校・保護者・地域で見守っている。	A	50周年記念式典も含め、マーチングバンド活動を6年全体で立派に演奏し、地域ともつながりを深めた。	A	50周年記念式典も含めマーチングバンド活動を6年全体で立派に行い、地域からも褒めの言葉をいただいた。	発表に向け、練習を重ねている。